

推薦・総合型選抜が、**近道**をかなえる**近道**でも、しっかりとした**対策が必要**です



推薦対策講座の**5**大ポイント

- ✔️ アウトプット（自己表現）する機会が多い
- ✔️ グループディスカッションしながら小論文を書き上げるにより効率よく考える力が身に付く
- ✔️ 現役大学生、社会人問わず卒業生によるスピーチなど臨場感あふれたゲストティーチャー制を採用
- ✔️ 生徒が発表をするたびに軌道修正を図り、フィードバックしながら進展
- ✔️ 志望理由書や小論文の添削、面接や口頭試問の対策は納得するまで練習し放題

～推薦・総合選抜入試対策講座～



緊張感を持たせるため、卒業生を定期的と呼んでスピーチを聞く生徒たち



一人ひとりが活躍しやすい4～5名を1グループにして、グループディスカッション中



県外など遠方の生徒に向けて、映像も収録しています



1つの班でグループディスカッションしながら、1つの小論文を作成中

面接指導はお任せください
名古屋本校 室長 北野 栄一

悩み事は一緒に解決しよう
岐阜本校担当 山田 貴大

私の体験記



慶應義塾大学 環境情報学部
同志社大学 クローバル地域文化学部グローバル地域文化学科アメリカコース
中央大学 総合政策学部総合政策学科
合格
名経大高蔵高校 山本 混己 君

◆受験勉強の思い出や苦労したことなど何でも教えてください
私は高校2年時の5月に文理に入塾しました。入塾前の面談で私は恐る恐る「第一志望、慶應にしたいです」と伝えたところ、北野室長は「今からやれば可能性は全然ある。まずは知識より意識だよ」と言って下さり、そこから慶應に必ず合格するという「意識」を持ち、本気で慶應を目指して日々コツコツ勉強をするようになりました。
入塾後、基礎知識が全くない私に、講師の方々は嫌な顔一つせずに勉強を教えてくださいました。そのおかげで、「着実に成長している」という実感が湧くようになり、勉強に対するトラウマ意識が徐々に無くなっていきました。しかし、立ちだかる壁は想像以上に高いものでした。慶應の偏差値は70以上、慶應に進学する生徒の出身高校の平均偏差値も70付近。現実を知れば知るほど、夢が遠のいているような気持ちに何度も襲われました。
高校3年に進級する直前の面談で、北野室長から慶應SFC(湘南藤沢キャンパス)が実施している、総合選抜型入試(旧AO入試)を紹介して頂きました。この入試は学力試験では測れない受験生の本質を総合的に評価する入試で、提出書類、面接で合否が決まります。私は2歳から日本の伝統楽器である「津軽三味線」を演奏し続け、プロ奏者として、さらに指導者としても活動しているため「大学での学びと特技を結びつけて、自分の強みを最大限発揮できるのはこの入試だ！」と思い、SFCを受験することになりました。
しかし学力試験が無いとはいえ、こなさなければいけないタスクが膨大な量であるため、夏休みは、文学博士の加藤先生のご指導を仰ぎ、SFCの総合型対策に毎日合計7時間以上の時間を費やしていました。ただ、SFCの総合選抜入試の倍率はほぼ10倍のため、一次審査の合否が出るまで一般試験の対策にも必死に取り組みました。無事に慶應SFCの一次審査に合格し、二次面接に挑むことになりました。しかしこの時、正直私は面接をナメていました。それなりに喋ればなんとかなるだろうという甘えが心のどこかにありました。その状態で北野室長と初めて面接練習をした際、現実を突き詰められ、悔しさのあまり涙を流しました。出来もしないけれど強がっている自分、一次試験を突破して浮かっている自分に腹が立ちました。その日以降、二度とこんな思いはしたくないと心の底から思い、一日中頭の中で妄想面接を繰り返し、歩きながら独り言をブツブツ言いながらアウトプットを繰り返しました。それに加えて、北野室長には毎日のように熱い面接指導をして頂き、SFCの二次面接当日は「SFCに行きたいという確固たる信念」を持って受験しました。合格発表の日まで、私は期待と不安が入り混じるなんともいえない気分を味わっていました。そして11/30、学校の教室で出願ページにアクセスし、「合格」の2文字を目にしました。正直、人生で一番感動しました。自分で自分を褒めるのは高揚がましいですが、この日はやはり自分を褒めまくりました。北野室長をはじめ文理の職員の皆様、学校の先生が自分のことのように喜んでくださり、慶應を目指して良かったとの底から思うことができました。一生忘れることのない体験ができました。応援していただいた文理の職員の皆様、本当にありがとうございました。

◆文理の良かったところを教えてください
現状の自分に何が足りないのかを、客観的に見てくださる担当の先生が居るといふ点、分からないことがあった時、すぐに質問ができる環境があるという点、そしてなにより第一志望合格に近づく事ができるカリキュラムを個別に作って下さるといふ点が良かったと考えています。

◆来年以降受験する後輩たちへメッセージをお願いします
とにかく自分が通っている高校のレベルを言い訳にせず、自分のビジョン達成のためには何が必要なのかを常に考えながら、ただがむしらに勉強するのではなく、戦略を立てて、ゴールから逆算することを忘れずに受験生活を後悔なく送ってください。私が通っていた高校から慶應に行った事例は無く、高3の初めの三者面談では担任の先生から「かなり厳しいです」というお言葉を頂きました。しかし、そこからでも慶應に合格出来ました。
『高校のレベルが高くなければ、難関大に行けない』という言葉は高校の友達や、周りの人にもいつも言われて来ました。しかし私は「そんな誰が決めたんだよ」と思い、どうすれば受かるのかを論理的に常に考え抜き、一人倍の情熱を持って受験生活を送りました。このように、やり方次第であなたの夢は叶うのです。その夢を、文理の優れたサポート体制を駆使して、是非叶えて頂きたいと思います。一生に一回にしかない受験生活を、後悔する事なく全力で過ごして下さい。皆様の合格を心からお祈り致します！



岐阜大学医学部看護学科 合格
岐阜北高校 苅谷 美有さん

◆文理をどのように利用しましたか？
文理には沢山の良さがありますが、ここでは大きく2つ取り上げたいと思います。
1つ目は、共通テストで使用される科目が全て有ることです。私は、どの科目も同じくらいの点数で何が得意で何が苦手とかがなく、沢山の授業から選択することが難しかったです。そこで、自分の受ける可能性のある科目を全て受け、一時は1週間に12科目を受けている時期もありました。はじめは大変さと学習時間が取れないことから、授業を減らすことも考えました。しかし、それをこなすことで気付けば全教科を平均的に勉強できていました。計画が苦手な私にとって、計画の時間を取られることなく、勉強できたことは非常に助かりました。他の塾とは違い小論文の授業があったこともプラスになりました。2つ目はTT(課題学習)・FTT(フリーテーマティーチング)があることです。私はTTやFTTをもちろんならなくていいのですが、進路相談や息抜きにも使っていました。受験期、根詰めで勉強をしていると、追い詰められたり、集中力がきたりしてよく眠れなかったり、先生方と進路の話やお話しながら勉強を教えてくださいまして、モチベーションが上がったり、気持ちが楽になりました。その他にも石鳥先生や山田先生をはじめ、沢山の先生にアドバイスをいただいたり、言葉の力をいただき合格をつかみ取れたと思っています。この塾に入れて良かったと心から思います。

◆後輩たちへのメッセージとして、目標達成への過程を教えてください。
目標達成のために心がけていたことは、自分の気持ちを隠さずに話すことです。一人では抱えきれないことが沢山出てくると思います。学校の先生に難しいと言われたことを諦めず塾の先生に相談してみてください。私自身、学校の先生に難しいと言われて一度は進路について諦めました。塾の先生に相談したことで背中を押してもらい諦めずに挑戦することができました。文理の先生方は言葉だけでなく小論文や面接の対策などもみっちりやってくれます。一方で学校はテスト前になると忙しく時間を取ってもらうのが難しくなっていくがちなのですが、塾の先生方はどんなに忙しくても時間を取ってくれます。ささいなことでも相談することがオススメです。それぞれの教科をどのように勉強するかを聞くと、あなたに合った方法を一緒に考えてくれます。もう一つは定期テストの手を抜かなかつたことです。文理にはありがたいことに学校毎のテスト対策があったし、マンツーマンの数学や理科などの対策も利用させていただきました。定期テストを真面目にやる人は、内申も上がり、志望校を受けるにあたってあらゆる可能性にかけられます。そして、定期テストに全力で取り組み姿勢を定期テスト後も続けることも意識しました。英語は単語、熟語、国語は古文単語、文法をやり続けることをオススメします。

名古屋校・岐阜校で行われている特別講座の「小論文」では、志望校に近い講師や卒業生が対面でお応え。志望理由も一緒に考えて添削などを行っています。受講者はオンライン校の生徒もいますし、添削はオンラインでも行っています。

授業では中学までの作文と高校での小論文の違いから始まり、よく間違える表現、使った方がよい言葉遣いについて解説。グループディスカッションで一つの小論文について賛成・反対に分かれ話し合いをしながら一つの小論文を仕上げていきます。最後には自分で書けるようにしていきます。一方的な講義ではなく、双方向のコミュニケーションを取りながら取り組む「アクティブラーニング」の採用で一人での勉強よりも格段に力が付きます。

受験生のひとり一人に合わせた指導を実践

名古屋本校・オンライン校担当 松堀 孝二

